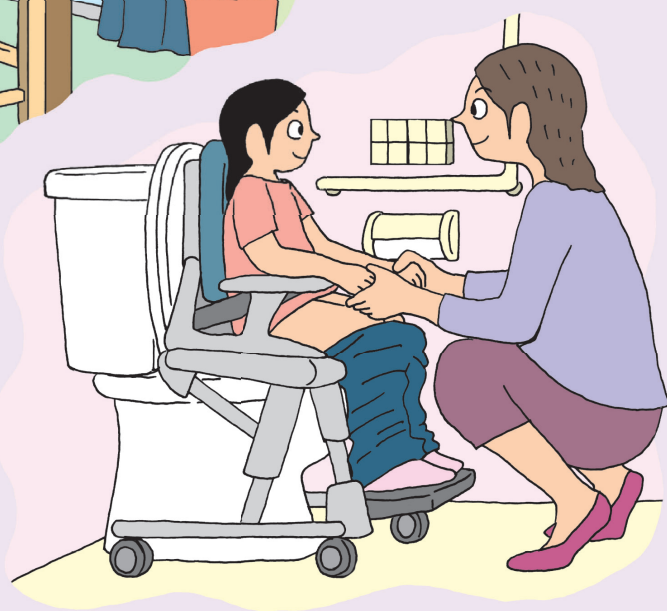
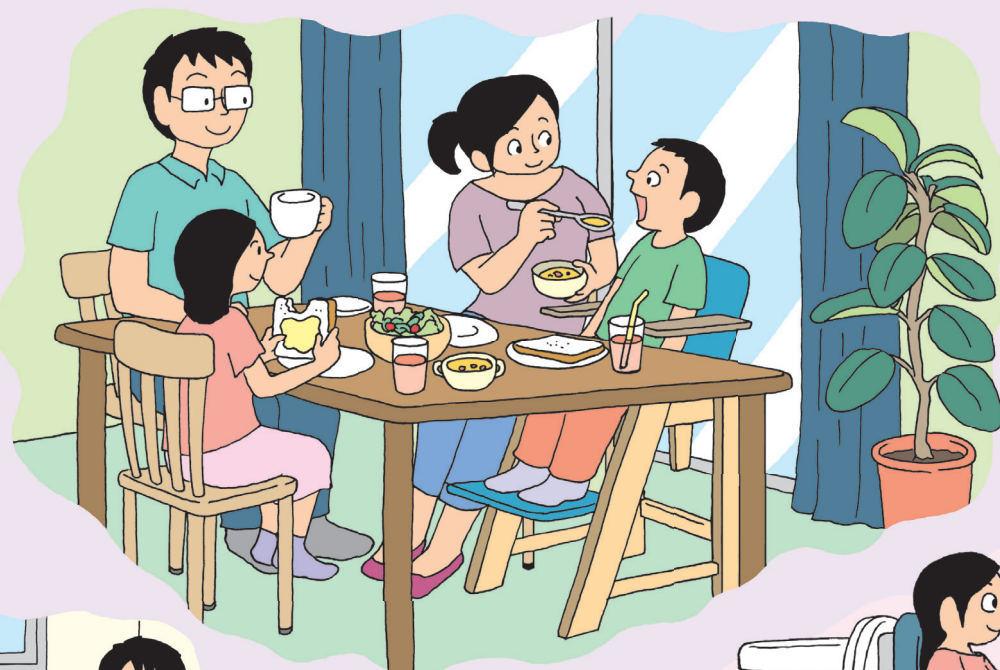


子どもの椅子

座位保持装置・バスチェア・トイレチェア

選び方のポイント



家の中で使う椅子（座位保持装置、バスチェア、トイレチェア）の選び方は、子どもの身体状況や使用環境、目的などさまざまなことを事前に確認する必要があります。必ず、医療や福祉の専門家と一緒に選びましょう。

座位保持装置



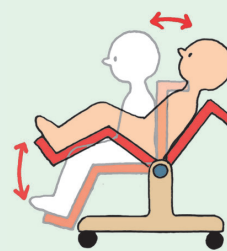
選び方のポイント

1 姿勢

身体に接する面が平面に近いもの、面ファスナーで身体の形に近づけて支えるもの、凹凸のあるクッションで支えるものがあります。また、椅子本体の角度が変わらないもの、背もたれだけが傾くリクライニング機能のもの、座面と背もたれの角度は一定のまま全体的に傾くティルト機能、リクライニング+ティルト機能等があります。お子さんの身体を無理なく一定時間支えられるものを選択しましょう。



リクライニング機能



ティルト機能

2 目的との適合

食事・遊びなどで汚れても掃除しやすい素材、保護者やきょうだいと同じ視線の高さで過ごす工夫など、誰とどこでどのような目的で過ごすのか、そのためにはどのような機能が必要なのかを考えて選びましょう。

3 成長対応

お子さんの成長に合わせて、座面の奥行きや背もたれ・足台の高さ等が調整できるものを選びましょう。



身体に接する面が平面で、必要に応じて左右方向からの支えやベルトを付けることができます。フレームが木製なので、家具との雰囲気合いやすくやわらかい印象がある点も人気です。

タカノ(株)／バンビーナチェア



全体をティルトさせることができ、身体を支える部分が面ファスナーのものと、凹凸のあるクッションのものを選択できます。座面が上下するなどオプションが豊富で、生活スタイルに合わせてやすい特徴があります。

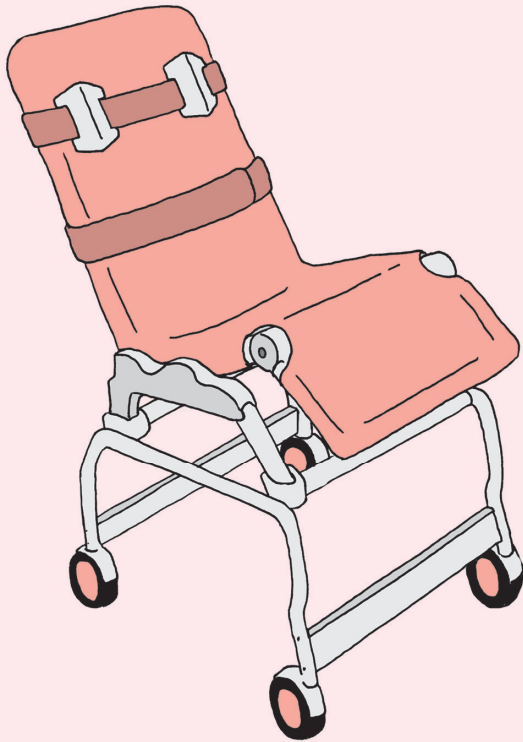
日進医療器(株)／MOSAIC (モザイク)



お子さんの身体を採寸または採型し、身体の形状に合わせた凹凸のあるクッションをオーダーメイドで作製します。フレームと呼ばれる土台部分は既製品やオーダーメイドで作製するなど、目的や環境に合わせて選択します。

座位保持装置モールド型・オーダーメイド

バス チェア



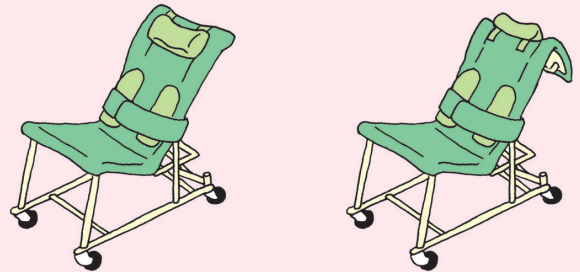
選び方のポイント

1 サイズ・仕様

お子さんの体のサイズに合わせる事が第一ですが、使用場所である浴室のサイズや、介助スペースも考える必要があります。展示場で見て使いやすいと思っても、自宅の浴室では大きくて使いにくいということもあります。

2 必要な機能

お子さんの身体状況によって、姿勢の変更機能（リクライニングなど）や、頭の部分だけが外れて洗いやすくなる機能が必要な場合もあります。キャスタはオプションで付けられるものが多いです。



3 成長対応

将来、寝室から浴室までバスチェアで移動することを想定すると、キャスタ付きのバスチェアが便利です。さらに、浴室にリフト導入を検討している場合は、リフトで吊り上げることができるバスチェアを選択することもあります。



バスチェアを選ぶ時は、狭い浴室でも使いやすく、持ち運びもしやすいコンパクトで軽量なものを選ぶとよいでしょう。また、リクライニング角度の調整ができるものは洗体時や洗髪時に使いやすいです。[アピリティーズ・ケアネット\(株\)／リフトンウェーブ](#)



ティルト機能や頭部の支え、背中のシートへの張り調整、パッド等の機能が付いたバスチェアは子どもの姿勢の安定に役立ち、洗体時は使い勝手がよいでしょう。ただ、機能が多くなると重量が重くなることがあるので、実際に体験してから導入しましょう。



入浴時は、親子ともに裸であることが多く、滑りやすい環境であるため、転倒などの事故には十分に気を付けましょう。バスチェアを導入することで、親は子どもから一時的に両手を離すことができるので、安全性は高まり、介助は随分楽になります。

トイレ チェア

選び方のポイント

1 便器の形状

一般の洋式便器は、座面が高く硬いため、お子さんが安定した姿勢で落ち着いて排泄を促すことは困難です。体格に合わせて足台を置いたり、お尻が前後左右にずれにくい座クッションや背もたれ、手すり等があったりすると使いやすくなります。

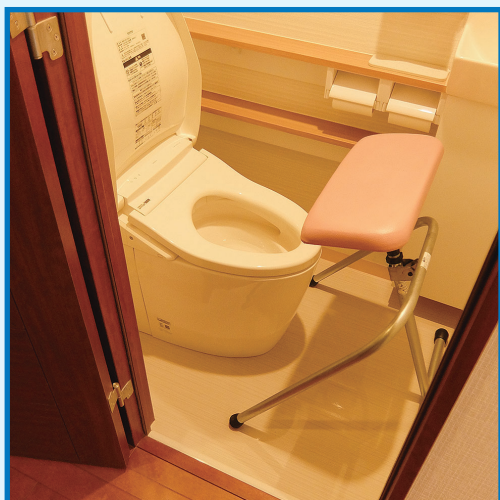
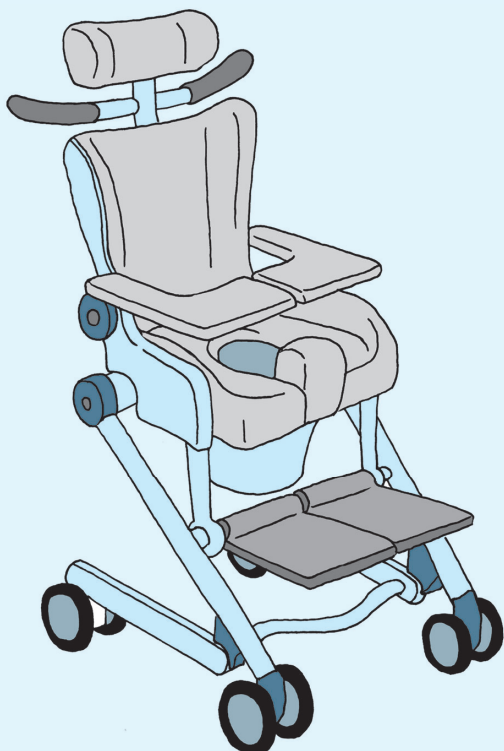
2 排便姿勢

排便時はお腹に力を入れる必要があります。背中を後ろに倒した姿勢より、少し前かがみになることで、自分で力を入れやすくなります。その姿勢を取るための、手すりや台などがあると良いでしょう。



3 移乗介助のしやすさ

自分で便器に乗り移ることが苦手なお子さんの場合、抱きかかえ介助で便器に座らせるよりも、座面に穴の開いた車椅子ごとトイレに移動して、そのまま便器に差し込む（便器の上に車椅子の座面が合うように）方法もあります。移乗や身体を支える介助負担が軽減されます。



一般的にトイレの手すりは壁面に取り付けることが多いため、子どもには位置が離れて使いにくいことがあります。写真のように少し前かがみの姿勢を取ることができ、支える面が広いテーブルが備わっている台等があると使いやすいでしょう。



既存の便座の上に直接置くクッション性のある便座は、座った時にお尻を包み込むように支え、座位姿勢を保ちやすい。また少し前かがみに座ることもしやすいためお腹に力が入りやすいのが特徴です。丸洗いも可能で衛生面に優れた商品もあります。



浴室で使うバスチェアの座面に穴が開いており、キャスターが付いている仕様のバスキャリーを使うと、居室や寝室から直接トイレに移動でき、便器への移乗介助なしで座ったまま排泄が可能です。安全性が高く、大変便利なトイレチェアです。